入院治療計画書

2日前入院・大腸切除術

D: < <sypid>></sypid>		患者氏名: < <orii< th=""><th>BP KANJI>> 様</th><th>生年月日: 〈〈ORIBP BIRTHD</th><th>DAY W>> (<<oribp birthday="">>)</oribp></th><th>病名(症状</th><th>₹):</th><th></th><th></th></orii<>	BP KANJI>> 様	生年月日: 〈〈ORIBP BIRTHD	DAY W>> (< <oribp birthday="">>)</oribp>	病名(症状	₹):		
	TAFF_SELECTEDDEPT_NAME>> / < <orevf_a>></orevf_a>	÷ 24 G	E: < <ordct_s_a>> ®</ordct_s_a>		担当医: < <ordct_t_a></ordct_t_a>				· 2017/6/5 作成
旦当看護師: < <c< th=""><th>ORDCT_N_A>></th><th>主治医</th><th>以外の担当者: 薬剤師</th><th>管理栄</th><th>養士</th><th></th><th>_</th><th></th><th></th></c<>	ORDCT_N_A>>	主治医	以外の担当者: 薬剤師	管理栄	養士		_		
月/日		/		/	/		/	/	
経過(病日等)	入院日~		手術当日(手術前)	手術当日(手術後)	術後1病日	2病日	3病日	4-6病日	7病日(退院日)
達成目標	①手術・治療について説明を 備段階を過ごすことができる ②わからないことは遠慮せず ることができる。	0	①術前準備について説明をうけ、安心して手術室へ出棟できる		①早期離床ができる。 ②痛みを訴えることができる ③ 術後偶発症について説明を受け、予防行動がとれる。	①看護師の介助にて トイレ歩行ができ る。 ②初回飲食ができる	①少しずつ身の 回りのことがで きるようになる	①食事摂取の仕方と合併症について説明を受け、少量ずつ食事ができ、合併症を予防できる	①退院後の日常生活の注意事項について説明を受け、安心して退院できる
治療・処置	O必要にM ます	いにします なじて除毛を行い	○朝〜 点滴をはじめます ○看護師が弾性ストッキングを はくお手伝いをします ○手術着に着替えます		○看護師が頻回に伺い、 体温や血圧測定などを行います ○酸素マスク・心電図を はずします ○傷口を確認します ○24時間持続にて点滴を します	○傷口を確認します ○膀胱留置カテーテ ルを抜去します。そ の後、トイレで排泄 ができます(直腸切 除術では抜去しない こともあります)		○傷口を確認します。(お腹の管がある場合は第5病日以降に抜きます) ○食事とともに点滴を減らし、 4病日で終了の予定です。	おめてとう こさいます
検査	₩/viāla			○採血をします	○採血をします ○胸部・腹部のレントゲ ン写真をとります) *	○採血をします		採血をします。
内服	〇お薬を飲んでいる方は他院の薬を 含めてすべて持参 してください	日に下剤を内服し			ondersne				
食事	○入院日は通常の ○手術前日 お食事が出ます 動食)まて ○飲水は自由です ○飲水は目	でとれます	〇午前()時まで飲水ができます	〇手術後は食べたり飲んだりは できません	○飲水が可能になります	○流動食が開始にな ります	○3日目より3分 (直腸切除術で	- 1、5分、全粥、米飯の順に1日お は開始日が遅れることもあります。	
看護	○院内は自由です ○入浴またはシャワーがで ○トイレで排泄ができます			○寝返りはできます	〇看護師が体を拭くお手 伝いをします 〇歩行を開始します				
リハビリ	○医師より手術について記述		○術前の準備、術後の状態、痛	○担当医から、ご家族の方へ手	〇歩行方法・トイレにつ	自由です(1日1回 	〇食事の摂取方法	<u>を行いましょう)</u> 法および合併症の予防についてご	┃ ┃○退院後の生活についてご説明しま
説明•指導	○看護師より入院生活につい ○手術室看護師が訪問に伺い ○麻酔科を受診し、麻酔医の ○薬剤師より持参薬・服薬歴 ○栄養士よりINBody測定(第 あります	て説明があります ます 説明を受けます の確認を行います 防肉量の測定)が	みのケア、安静、トイレ、清拭についてご説明します 〇手術前にうがい、歯磨きを済ませておいてください 〇ヘアピン、義歯、貴金属類をおとりください 〇手術前にトイレを済ませておいてください	術結果の説明があります	いてご説明します		説明します		す

\star	特別な栄養指導管理の必要性
\star	特別な宋養指導管理の必要性

有

無

注1 病名等は、現時点で考えられるものであり、今後検査などを進めていくにしたがって変わり得るものです。

注2 入院期間については現時点で予測されるものです。

ご不明な点は遠慮なくスタッフにお尋ねください。

高齢者総合評価の実施										
	総合的な 機能評価	日常生活動作 問知機能 問知機能	問題なし 問題なし 問題なし 問題なし 問題なし	要精査または要経過観察 要精査または要経過観察 要精査または要経過観察 要精査または要経過観察 要精査または要経過観察						

<<DYTODAY>>

説明者:

説明を受けた人: 続柄 (代表者) ()

公立大学法人福島県立医科大学会津医療センター附属病院

パス承認番号(No.98) 承認年月日(2017年7月13日)